

参考－4 事例集

地域における通学路等の安全確保に向けた 取組事例集

令和3年3月

**文部科学省総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
安全教育推進室**

本事例集について

本事例集は、令和2年度「地域における通学路の安全確保の方策等についての調査研究」において実施した通学路の安全確保の方策等に関する都道府県、市町村へのアンケート調査結果を踏まえ、現在通学路の安全確保に向けた取り組みを実施している、あるいは今後取り組むことを検討している自治体やボランティア等に対して有用な知見となるよう、各自治体が発行する具体的な取組をヒアリング調査によって深掘し、とりまとめたものです。

なお、本事例集を踏まえた、通学路の安全確保の方策に向けた最終的なとりまとめは「地域における通学路の安全確保の方策等についての調査研究」調査報告書をご覧ください。

◎事例集の見方

読者の参考となるよう、各事例について、6つの視点で分類しています。

活動の概略をまとめています。

活動の基本情報と具体的な活動内容を整理しています

SGの活動

行政との連携

住民同士

活動の活性化

若者の参加

見守り

活動の活性化

若者の参加

千葉県千葉市

「スクールガード・アドバイザーと学校セーフティウォッチャーの活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	981,738人	271.8㎢	3,612人/㎢	113校

※令和3年3月1日現在

活動の概要

「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」として委嘱事業であった平成14年度～補助事業に変わった現在に至るまで長期間事業を継続している。登下校の見守り活動を実施する「学校セーフティウォッチャー」と、学校への巡回・評価、学校セーフティウォッチャーに対する指導・助言を行う「スクールガード・アドバイザー」が活動している。
・活動者、市、学校、学校支援地域本部（地域学校協働本部）等が積極的に連携を取りながら取組を進めている。

基本情報

事業開始時期	平成14年度 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業を開始
事業内容	「学校セーフティウォッチャー」の養成・研修、「スクールガードアドバイザー」による学校への巡回・評価、学校セーフティウォッチャーへの指導・助言
活動者数と主な経歴	スクールガード・アドバイザー：13名（元警察官1名、元校長12名） 学校セーフティウォッチャー：25,149名（保護者、PTA、地域住民、学校支援地域本部等）
活動学校	市内全小学校・中学校・特別支援学校・市立高校
行政からの支援	スクールガード・アドバイザー：帽子、腕章、ネームタグ 学校セーフティウォッチャー：腕章 ※横断旗、ビブス等の装備品は各学校から提供

活動の工夫

◎ 学校セーフティウォッチャーへの「感謝」が活動の継続性に繋がる
・学校セーフティウォッチャーが「いて当たり前」の空気が課題の一つである。
・そのため、教員への意識啓発とともに、学校セーフティウォッチャーを学校に招待して児童の発表会を見学したり、セーフティウォッチャーにお礼の手紙を読む会、給食と一緒に食べる会など、各学校が独自に取り組んでいる。
・日頃からの学校との関係づくりだけでなく、学校セーフティウォッチャーのモチベーションアップ、活動の継続にも繋がっている。
◎ 様々な主体とのコミュニケーションにより、地域全体での見守りを実現
・巡回時には、学校教員とのコミュニケーションを積極的に実施するなど、市・地域学校協働本部等とのコミュニケーションを重視、スクールガード・アドバイザー、学校セーフティウォッチャーだけで見守るのではなく、地域全体で子供たちの安全を見守る体制を構築している。

活動の内容

「青少年育成委員会」が設定されている中学校区を1つの区域とし、登下校の見守り及びスクールガード・アドバイザーによる巡回を実施している。
見守りの対象は主に小学生だが、中学校区をカバーすることで小学校の通学路もカバーしている。特別支援学校、市立高校も巡回の対象としている。
・学校セーフティウォッチャーは主に活動する小中学校へ登録し活動する。スクールガード・アドバイザーは各育成委員会4から6区域を担当する。
・「スクールガード・アドバイザー連絡協議会」を年1回開催し、情報交換及び学校セーフティウォッチャー活動の充実を目指し、講師の指導を受ける。
・青少年育成委員会や学校支援地域本部との連携、情報共有を密に実施している。学校セーフティウォッチャーの登録者は、学校支援地域本部における見守り活動実施者と重なる部分が多い。

気持よく見守り活動ができるような環境づくりが大切

スクールガード・アドバイザー 花沢俊一さん

セーフティウォッチャーが活動中様々な人と挨拶を交わすことは、子供たちの見守りだけでなく、良好な地域づくりに寄与していると考えています。学校セーフティウォッチャーが気持ちよく活動できる環境づくりのため、巡回時のコミュニケーションを大切に、市や学校とのきめ細やかなような努めています。セーフティウォッチャーからの「ありがとう」の言葉はとても嬉しいですね。
いつの日か今の子供たちがセーフティウォッチャーやスクールガード・アドバイザーとして活躍してくれる日が来るといいなと夢膨らませながら活動しています。

～プロフィール～
・中学理科教員、千葉市補導センター、小学校校長を歴任。
・退職後、現役時代にお世話になった地元への恩返しをしたいと、平成29年度から活動開始
・市内5つの中学校区、8つの小学校を担当。担当区が広いので、独自にグループをつくり、日替わりで巡回している。本人曰く「活動は健康の為である」とのこと。

自治体の概略^注と位置情報を示しています。赤塗りつぶしされている場所が当該自治体の位置です。

※注）住民基本台帳に基づく人口

活動上の工夫をまとめています。

実際の活動者や自治体等担当者からのメッセージを記しています。

目次

1. 地域ぐるみの学校安全整備推進事業(スクールガード・リーダー、スクールガード)に関する取組事例・・P3

- ・千葉県千葉市 : スクールガード・アドバイザーと学校セーフティウォッチャーの活動
- ・福岡県福岡市 : マンパワーとIoTを組み合わせ、新しい見守り活動へチャレンジ
- ・埼玉県加須市 : スクールガード・リーダーと学校応援団による見守り活動
- ・山梨県道志村 : 村全体で子供の安全を見守る体制の構築を目指した取組

2. 住民の自発的な取組による、地域一体となった通学路の安全確保の取組事例・・・・・・・・P8

- ・京都府長岡京市 : “通学路安全対策調査”による危険箇所の情報収集と対策の実施
- ・埼玉県嵐山町 : 住民主体による、地域一体での見守り活動

3. 小学校単位での登下校時の見守り活動に関する取組事例・・・・・・・・P11

- ・京都府京都市立御室小学校 : 大学生も活躍する、御室こども見守り隊の活動
- ・石川県金沢市立夕日寺小学校 : “子供の視点”を重視する、夕日寺スクールサポート隊の見守り活動
- ・鳥取県湯梨浜町立東郷小学校 : コミュニティ・スクールを活用し、活動が活性化したオレンジベスト隊

4. 見守り活動等に対する行政等からの支援に関する取組事例・・・・・・・・P15

- ・熊本県 : 皆で支え合う、県下の見守り活動 PTA教育振興財団の共済金による支援
- ・新潟県胎内市 : 地域一体となり、子供の見守り組織を支える活動

5. 多様な活動者による安全・安心の創出に関する取組事例・・・・・・・・P18

- ・宮城県白石市 : 中学生を中心とした、安全・安心なまちづくりへの活動
- ・宮城県塩竈市 : 塩竈市内11の郵便局員による、“ながら見守り”の活動

1. 地域ぐるみの学校安全整備推進事業(スクールガード・リーダー、スクールガード)の取組事例

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

千葉県千葉市

「スクールガード・アドバイザーと学校セーフティウォッチャーの活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	981,738人	271.8km ²	3,612人/km ²	113校

※令和3年3月1日現在



活動の概要

- 「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」として委嘱事業であった平成14年度～補助事業に変わった現在に至るまで長期間事業を継続している。
- 登下校の見守り活動を実施する「学校セーフティウォッチャー」と、学校への巡回・評価、学校セーフティウォッチャーに対する指導・助言を行う「スクールガード・アドバイザー」が活動している。
- 活動者、市、学校、学校支援地域本部（地域学校協働本部）等が積極的に連携を取りながら取組を進めている。

基本情報

事業開始時期	平成14年度 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業を開始
事業内容	「学校セーフティウォッチャー」の養成・研修、「スクールガードアドバイザー」による学校への巡回・評価・学校セーフティウォッチャーへの指導・助言
活動者数と主な経歴	スクールガード・アドバイザー：13名 （元警察官1名、元校長12名） 学校セーフティウォッチャー：25,149名 （保護者、PTA、地域住民、学校支援地域本部等）
活動学校	市内全小学校・中学校・特別支援学校・市立高校
行政からの支援	スクールガード・アドバイザー：帽子、腕章、ネームタグ 学校セーフティウォッチャー：腕章 ※横断旗、ビブス等の装備品は各学校から提供

活動の内容

- 「青少年育成委員会」が設定されている中学校区を1つの区域とし、登下校の見守り及びスクールガード・アドバイザーによる巡回を実施している。
- 見守りの対象は主に小学生だが、中学校区をカバーすることで小学校の通学路もカバーしている。特別支援学校、市立高校も巡回の対象としている。
- 学校セーフティウォッチャーは主に活動する小中学校へ登録し活動する。スクールガード・アドバイザーは各育成委員会4から6区域を担当する。
- 「スクールガード・アドバイザー連絡協議会」を年1回開催し、情報交換及び学校セーフティウォッチャー活動の充実を目指し、講師の指導を受ける。
- 青少年育成委員会や学校支援地域本部との連携、情報共有を密に実施している。学校セーフティウォッチャーの登録者は、学校支援地域本部における見守り活動実施者と重なる部分が多い。

活動の工夫

- ◎ **学校セーフティウォッチャーへの「感謝」が活動の継続性に繋がる**
 - 学校セーフティウォッチャーが“いて当たり前”の空気が課題の一つである。
 - そのため、教員への意識啓発とともに、学校セーフティウォッチャーを学校に招待して児童の発表会を見学したり、セーフティウォッチャーにお礼の手紙を読む会、給食を一緒に食べる会など、各学校が独自に取り組んでいる。
 - 日頃からの学校との関係づくりだけでなく、学校セーフティウォッチャーのモチベーションアップ、活動の継続にも繋がっている。
- ◎ **様々な主体とのコミュニケーションにより、地域全体での見守りを実現**
 - 巡回時には、学校教員とのコミュニケーションを積極的に実施するなど、市・地域学校協働本部等とのコミュニケーションを重視、スクールガード・アドバイザー、学校セーフティウォッチャーだけで見守るのではなく、地域全体で子供たちの安全を見守る体制を構築している。

気持ちよく見守り活動ができるような環境づくりが大切

スクールガード・アドバイザー 花沢俊一さん

セーフティウォッチャーが活動中様々な人と挨拶を交わすことは、子供たちの見守りだけでなく、良好な地域づくりに寄与していると考えています。学校セーフティウォッチャーが気持ちよく活動できる環境づくりのため、巡回時のコミュニケーションを大切に、市や学校とのよき仲介役となるよう努めています。セーフティウォッチャーからの「ありがとう」の言葉はとても嬉しいですね。

いつの日か今の子供たちがセーフティウォッチャーやスクールガード・アドバイザーとして活躍してくれる日が来るといいな、と夢膨らませながら活動しています。

～プロフィール～

- 中学理科教員、千葉市補導センター、小学校校長を歴任。
- 退職後、現役時代にお世話になった地元への恩返しがしたいと、平成29年度から活動開始
- 市内5つの中学校区、8つの小学校を担当。担当区が広い、独自にグループをつくり、日替わりで巡回している。本人曰く「活動は健康の為でもある」とのこと。



SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

福岡県福岡市

「マンパワーとIoTを組み合わせ、新しい見守り活動へチャレンジ」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	1,563,218人	343.46km ²	4,551人/km ²	145校

※令和3年2月末日現在



活動の概要

- 教育委員会指導部生徒指導課が所管課として、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」での各校巡回、NPO法人による防犯教室などを推進しているほか、市民局の生活安全部では「IoTを活用した子ども見守り事業」を実施するなど、教育委員会と首長部局とが連携して通学路の安全確保に取り組んでいる。
- 精力的なスクールガード・リーダーと大勢のスクールガードによって、市内公立学校全校（小・中学校、特別支援学校）を対象に地域ぐるみ事業の活動を行っている。
- スクールガード・リーダー、スクールガードの高齢化・担い手不足や、マンパワーで対応できることの限界を、IoT等の技術でカバーしようという理念を持っている。

基本情報

開始の経緯	市内外での交通事故・事件の発生や文部科学省からの要請等もあり、2007年度より開始
取組内容	スクールガード・リーダー：学校内外の危険個所の確認・集約、 子供が楽しく学べる防犯教室の開催 スクールガード：通学路の見守り活動をはじめ、学校の状況に応じ 様々に活動
活動者数と 主な経歴	スクールガード・リーダー：警察官OB（2名）、警備会社関係者 （1名）、防犯関連NPO法人関係者（1名） スクールガード：地域住民や保護者など29,200名（※R1実績）
活動学校	市内公立学校全校（小学校144、中学校69、特別支援学校8）
行政からの支援	スクールガード・リーダーには、謝金、保険加入等の支援

活動の内容

- スクールガード・リーダーは各学校を年間1回訪問し、学校の内外を観察し、防犯の専門的な見地から指導・助言を行っている。各校についてチェックシートを作成し、校長の所見を書き加えたうえで教育委員会に提出している。
- スクールガード・リーダーは、スクールガードに対して行う養成講習会において、子供たちの防犯についての講師をしている。
- 年間3回の「スクールガードリーダー連絡会」を開催しており、スクールガード・リーダーが各学校を巡回する中で得た情報や意見を集約・共有している。
- スクールガード・リーダーには、防犯のNPO法人関係者もあり、年間数校で防犯教室の講師をしている。子供たちが体を動かしながら、楽しく学ぶことのできる教室を提供している。
- スクールガードは、通学路の見守り活動を中心に、各学校の特性に合わせて様々に活動している。無償のボランティアであるため、過負担にならない範囲での活動を行う。

活動の工夫

◎ 市民局の「IoTを活用した子ども見守り事業」とも連携

- 市民局の防犯・交通安全課では協働実施事業者である九州電力送配電株式会社と協力し、2019年より、小学生に見守り端末を配布して位置情報を記録し、登下校等の安全確保に役立てるサービスを開始している。
- 教育委員会も連携して事業推進し、既に市内全域でサービスを開始している。
- 見守り活動員の高齢化、人材不足、時間的な制約といった課題を、IoTを活用することで補完していこうという目的がある。

◎ スクールガードの心理的なハードルを下げる

- スクールガードを大げさに考えず、日々の生活の中で自ずと犯罪抑止につながるような小さな積み重ねを行ってもらうことを重視している。
- 「地域住民や保護者等、子どもたちの安全に関わっている全ての方々がスクールガードである」との認識を多くの人にもっていただくことができるよう、各学校を通じて、保護者や地域の方々に啓発している。

「スクールガード」のハードルをもっと低く

福岡市教育委員会 指導部 生徒指導課 主査

スクールガードへのハードルが、もっと下がるとよいなと感じています。保護者や地域の方々が、生活の中で少しだけ防犯や交通安全を意識するだけでも、地域の抑止力は高まります。スクールガードを特定の人が担う役職だと認識するのではなく、「子どもたちの安全に関わっていただいている全ての方々がスクールガードである」という認識が少しでも広がっていくとよいですね。

福岡市市民局 生活安全部 防犯・交通安全課 企画調整係長

現在、非常に協力的な活動者の皆様のおかげで、子供の安全が確保されています。ただ、今後はマンパワーに頼り切るのではなく、IoT等の技術を活用するなど、複数の手段を組み合わせ、効率的な見守り活動の姿を模索していきたいと考えています。



SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

埼玉県加須市

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
市	112,764人	133.5km ²	845人/km ²	22校

※令和3年3月1日現在



「スクールガード・リーダーと学校応援団による見守り活動」

活動の概要

- 埼玉県において、学校における安全・安心や学習活動等をボランティアとして支援する「学校応援団」が開始されたことを契機に、スクールガード・リーダーによる活動を開始した。
- スクールガード・リーダーは、県の要請もあり、市内全小学校に各1名ずつ配置されている。
- スクールガード・リーダーの経歴には、元学校長、元警察官等の基準はなく、PTA役員や見守り活動経験者等、様々な住民が担っている。
- 市内小・中学校には「学校応援団」として登下校時の見守り活動を実施するボランティアが登録されている。

基本情報

事業開始時期	平成17年度 埼玉県「学校応援団」の開始を契機に、スクールガード・リーダーを導入
事業内容	通学路における見守り活動 挨拶強化月間における教員、学校応援団と連携した見守り活動 担当校教員との情報交換
活動者数と 主な経歴	スクールガード・リーダー:22名 市内22校に各1名ずつ配置 経歴は学校応援団経験者、PTA役員等様々 学校応援団による見守り活動登録者: 小学校1,021名, 中学校183名
活動学校	市内全小学校 ※ただし、学校応援団は中学校にも登録
行政からの支援	スクールガード・リーダー:ベスト(県より支給)、帽子、腕章、 ライト付きボールペン、メモ ※ただし、市では装備品の支給に係り地域ぐるみの学校安全整備推進事業補助金を活用していない

活動の内容

- 市内22のすべての小学校に1名ずつスクールガード・リーダーが配置されており、登下校時の見守り活動や学校との情報交換を実施している。
- 活動方法や活動内容に特段の決まりごとはなく、スクールガード・リーダーが学校と相談するなどして決定している。
- 毎年5月、10月の「挨拶強化月間」に合わせて、スクールガード・リーダー、教員、学校応援団が連携した見守り活動を実施している。
- 学校毎に、見守り活動に係る研修会を実施している。

活動の工夫

◎ 感謝の会や学校行事への招待によりモチベーションアップを図る

- 各学校において、自主的にスクールガード・リーダーや学校応援団への感謝の会を実施しているほか、スクールガード・リーダーを運動会や学芸会、卒業式等に招待する学校もある。
- こうした取組は、活動者のモチベーションアップに繋がるだけでなく、子供たちがスクールガード・リーダーを認識するきっかけともなる。

◎ 市報にスクールガード・リーダーを紹介し、活動のしやすさを向上させる

- 過去、スクールガード・リーダーの活動が地域住民に十分に浸透していないという指摘があった。地域住民の活動への理解は、スクールガード・リーダーの活動のしやすさに直結する可能性が高い。
- そこで、各校を担当するスクールガード・リーダーを市報にて紹介し、スクールガード・リーダーの認知度と活動のしやすさの向上を目指した。

子供達の自主性も見守ることが大切

スクールガード・リーダー 加藤久佳 様

市では、集団登校を実施しており、高学年の班長がいます。班長は、周りを見て低学年の子供たちに危なくないよう声かけをしています。せっかく子供達同士が危ない行為や危ない箇所を伝え合っているのに、大人が言いすぎるのはよくないと思っています。もちろん、本当に危険な場合には声をかけますが、基本的には「見守る」ことに徹しています。

学校から卒業式に招待いただいており、長年見守っていた子供たちが成長した姿を見ると、感慨深いものがあります。

～プロフィール～

- 平成23年度にスクールガード・リーダーが3校1名体制から1名1校体制に変わったことを契機に、スクールガード・リーダーとしての活動を開始。活動開始当時はPTA副会長。
- 通勤前に自動車で学校へ向かい、1.5時間程度見守り活動を実施の後に出勤。
- 担当校区4～5kmの範囲を自転車や徒歩で巡回。趣味の街道歩きトレーニングにも寄与しているとのこと。



SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

山梨県道志村

「村全体で子供の安全を見守る体制の構築を目指した取組」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
村	1,632人	4.99km ²	327/km ²	1校

※令和3年3月1日現在



活動の概要

- ・ スクールバスで通学している児童に対して、スクールガード・リーダーが車での見守り活動等を実施。
- ・ P T Aの代表や学校長、駐在所、教育委員、教育委員会事務局を巻き込んだ「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」を組織して見守り活動を実施。
- ・ さらに、保護者をはじめとして地域全体で見守りを行う体制を構築していくための出発点として、「活動している様子」を見せて行くような周知・PR活動を進め、住民の意識啓発に取り組んでいる。

基本情報

開始の経緯	村内の主要道路の交通量が比較的多く、交通事故が多く発生していることや他県等における子供が狙われた事件等の発生をきっかけとして開始
取組内容	スクールガード・リーダーによる車両追尾による見守り活動、防犯教室の開催 関係組織と連携した「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」による見守り活動
活動者数と主な経歴	スクールガード・リーダー：1名（教育委員OB）
活動学校	村内の小中学校（小中一体型）
行政からの支援	スクールガード・リーダーに対する帽子、腕章を提供

活動の内容

- ・ 村内の小・中学生はスクールバスで通学していることから、SGLによる見守りは、スクールバスの後ろを自動車で追尾する形で実施している。
- ・ スクールガード・リーダー一人ではできることに限界があることから、地域全体での見守りの機運を高めるため、PTAの代表や学校長、教職員、駐在所、教育委員、教育委員会を巻き込んだ「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」を組織し、学期に2回、スクールバスの停留所などでの見守り活動を行っている。
- ・ また、同隊の結成にあわせて様々な団体への見守り活動の協力を呼びかけており、建設業協会からはベスト30着の寄贈をうけるとともに、車両に見守り活動中のステッカーを掲示した、ながら見守り活動にも参加いただいている。
- ・ 日常的にPTAから挙げられた危険箇所について教育委員会で取りまとめしており、10月に実施している合同安全点検では、スクールガード・リーダーや警察・道路管理者とともに点検を行っている。

活動の工夫

◎ 見守り活動を地域に周知して地域の意識向上を図る

- ・ スクールガード・リーダーが保護者や児童・生徒に知られることが重要となるため、始業式や運動会、文化祭などの様々な行事においてスクールガード・リーダーが出席するようにしている。

◎ 学校・教育委員会など地域との積極的な連携の場の構築

- ・ スクールガード・リーダーはもともと教育委員であったこともあって教育委員会や学校現場とのネットワークができており、普段から密な連携を行っている。
- ・ 「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」でも、関係者が集まって相互に意見交換や情報共有を行うなど、地域の関係者と積極的に連携する場を構築し、地域全体で防犯意識を底上げして、地域全体で見守る取組を進めている。

地域全体で見守る意識の情勢に向けて、活動を見せることから始める

道志村スクールガード・リーダー 池谷幸昌さん

一人でできることには限界がありますが、スクールガード・リーダーやスクールガードを増やしても、地域全体をくまなく網羅的に見守ることはやはり難しく、地域全体で協力をしていくことは必要不可欠です。

県が実施している研修会などに参加して他のスクールガード・リーダーの方の話を聞く中で、地域全体で見守るような体制を作っていくことが重要だと考え、様々な団体に声をかけて協力を要請し、結果として「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」などもできました。

「地域全体で協力していく」というゴールに向けて、保護者をはじめとした地域の皆さんの協力を得られるようになるためには、まず、見える形で「活動している様子」を見せて行くことが大事だと考えており、村と協力しながら、周知・PR活動から取り組みを進めています。



2. 住民の自発的な取組による、地域一体となった通学路の安全確保の取組事例

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

京都府長岡京市

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
市	80,991人	19.2km ²	4,218人/km ²	10校

※令和3年3月1日現在



「“通学路安全対策調査”による危険箇所の情報収集と対策の実施」

活動の概要

- ・ 地元住民等から寄せられた通学路上の危険箇所への対策要望を各小学校が取りまとめて教育委員会に報告し、教育委員会や関連部署・機関が対応している。
- ・ 対策要望は毎年100件程度寄せられ、草刈の実施といった小さなものから、信号機の新設など大きなものまで様々である。
- ・ あわせて、青パトの巡回やシルバー人材センターによる登下校時の見守り活動も行っており、通学路の交通安全の確保についてきめ細やかな対策を取ることができている。

基本情報

開始の経緯	古くから地元住民による自発的な見守り活動が行われており、その延長として開始
取組内容	通学路上の危険箇所や整備不良箇所の情報収集、対策方針の検討と所管課・関連機関等との調整・対応
活動者数と主な経歴	地域委員、PTA等の保護者：毎年2,000名超
活動学校	市内全小学校

活動の内容

- ・ 通学路の交通安全を確保するために対策が必要と思われる箇所やその方策についての意見を地域委員、PTA等から収集し、教育委員会と所管課・関連機関等が連携して対応に当たっている。
- ・ 地域委員やPTAには、対策の可否・方向性を共有する中間報告と、最終的な対応状況・方針を共有する最終報告を通じて結果を伝達している。なお、簡単な処置で済むものはすぐに対応している。
- ・ 日々の見守り活動はシルバー人材センターに委託しているほか、青パトによる見回りや、市長、副市長、市、教育委員会による朝の見守り挨拶活動を定期的に行っている。
- ・ 通学路安全対策調査により、見守り活動だけではカバーしきれない細やかな点について対応することができている。

活動の工夫

◎ 関係者間の協力・分担により、きめ細やかな対策を実現

- ・ 対策要望は毎年100件程度寄せられるが、教育委員会ですべてを引き受けるのではなく、市の道路・河川課や交通政策課等の関連部署や、警察、府道路管理者等の関連機関と協力して対応に当たっているため、様々な要望に対応が可能である。
- ・ また、大々的な対策が必要なものについては、長岡京市子どもの移動経路・通学路等の交通安全プログラム等の別事業を活用して対応するようにしている。規模や内容に応じて適切に分担していくことが手厚い対応を可能にしている。

◎ 近隣自治体と気軽に相談しあえる関係が円滑な対応に繋がる

- ・ 通学路の安全対策を行うにあたり、困りごとが発生した場合には、近隣自治体に電話で相談している。反対に、近隣自治体からの問い合わせに応じることもあり、持ちつ持たれつの良い関係が築けている。こうした関係性は円滑な対応を行う上で非常に重要である。

平和であることがなによりの成果

長岡京市教育委員会 教育部 学校教育課 学務係 係長

当市では、昔から地域住民の皆様による自発的な見守り活動が行われてきました。通学路安全対策調査も、その延長として取り組まれているものです。

通学路安全対策調査を通じ、毎年多くの対策要望が寄せられています。具体的には、電柱幕の交換や、視界不良箇所の草刈、擦れた停止線の引きなおし、信号機の新設など、様々なものが挙げられます。教育委員会だけでは気が付くことができない課題をご報告いただいているおかげで、通学路の交通安全の確保に向けたきめ細やかな対策を講じることができています。

こうした取組の成果もあって、当市では登下校時の交通事故の発生が少なく、また、一定の平和な通学環境が保たれています。今後も地域の皆様のご協力のもと、通学路の安全確保に向け、必要な対策を講じていきたいと思ひます。

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

埼玉県嵐山町

「住民主体による、地域一体での見守り活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	町立小学校数
町	17,777人	29.9km ²	595人/km ²	3校

※令和3年3月1日現在



活動の概要

- ・ スクールガード・リーダーだけでなく、町内行政区（町内会）、PTA、ボランティア団体、交通指導員、行政職員等による見守り活動が行われている。
- ・ 日ごろからのコミュニケーションにより見守り活動者同士の横の連携も自然と構築された。
- ・ 登校時は児童への付き添いを実施しているが、行政区をまたぐ際に、次の行政区の見守り活動者へバトンタッチするなど、役割分担を明確にし、登下校時の空白地帯の減少や、活動負担の軽減を実現している。

基本情報

開始の経緯	地域ぐるみ事業を平成24年度から開始
取組内容	各区の取組は区ごとに様々であり、通学路の安全点検、見守り活動、登校時の付き添い、立哨指導、見守り講習会の開催等を実施
活動者数と主な経歴	スクールガード・リーダー：3名（うち、元警察官1名）
活動学校	町内全小学校（3校）
行政からの支援	スクールガード・リーダー：県からビブスを提供 地域ボランティア団体：帽子、ベスト等を提供（地域ぐるみ事業外で支援）

活動の内容

- ・ 活動内容は各区、各活動によって様々であるが、主な活動は、登校時の児童付き添い、下校時の見守り活動、交差点等での立哨指導である。
- ・ 登校時の児童の付き添いにあたって、通学路が複数区をまたぐ場合には、付き添いの引継ぎをしている。
- ・ 見守り講習会には、各区住民やPTA、教職員等が参加し、スクールガード・リーダーが講習会の企画及び講師を担っている。
- ・ 各区では、月1回（概ね17時から19時頃に）ナイトパトロールを実施しており、毎回ほぼ全員が参加する区もあるなど、防犯だけでなく、区内住民のコミュニケーション手段としても効果的である。
- ・ 見守り活動の役割分担や方法など、町として指導・提案等は特段実施しておらず、見守り活動者の横のつながりによって、地域ぐるみ見守り活動が実施されている。
- ・ 町では、町役場職員による青色防犯パトロール車での巡回や、交通指導員の確保、パトロールセンターを中心とした防犯活動を実施している。

活動の工夫

- ◎ **広域な通学路は見守りの引継ぎによって安全を確保する**
 - ・ 通学路が広域であるため、付き添い登校や見守り活動への負担が大きいことが課題の一つである。
 - ・ そこで、各区それぞれが区内の見守り活動を実施し、区をまたぐ場合には引継ぎを実施することで、活動者の負担軽減だけでなく、登下校の空白地帯の減少につながっている。
 - ・ また、各校PTAや交通指導員等が活動を補完し、地域全体での安全な通学路と見守り体制が構築されている。
- ◎ **子供たちの一礼が、横断歩道前で停止する自動車の増加に繋がる**
 - ・ 町内は交通量が多いうえ、信号機のない横断歩道も多くあるため、一時停止しない自動車も少なくない。
 - ・ しかし、横断歩道前で停止した自動車に対して、児童生徒が横断後に一礼することが定着し、横断歩道前で停止する自動車が増加した。

子供たちの笑顔と挨拶が何よりも嬉しい

嵐山町で見守り活動に取り組むみなさん

嵐山町では、各区がそれぞれに見守り活動を実施しており、どの区も活発に活動しています。なかでも、付き添い登校の引継ぎは、各区が責任を持ち、一生懸命に活動しているからこそ実現できていることだと思います。

一方で、高齢化や定年延長などの影響により、担い手不足や、活動者の固定化など、全国的にみられる課題も表出し始めていますが、町内の子供たちは町内で守る意識のもと、日々安全な通学路の確保に向け取り組んでいます。

活動をしていて、子供たちとコミュニケーションを取り、笑顔挨拶してくれること何よりも嬉しいですね。当初は義務感で活動していた方が、活動を重ね、今では下校時間が来ると自然と体が動いてしまう、なんて人もいます。



写真左から：スクールガード・リーダー 花田憲博さん、見守りボランティア「いちえ会」関口和夫さん、権田一郎さん、区長会副会長 茂木伸一さん、区長会会長 権田浩一さん、川島3区長 江森不二男さん

3. 小学校単位での登下校時の見守り活動の取組事例

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

京都府京都市

「大学生も活躍する、御室こども見守り隊の活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	1,400,720人	827.8km ²	1,692人/km ²	161校

※令和3年1月1日現在 ※義務教育学校含む



活動の概要

- 京都市右京区の自主防犯ボランティア団体（右京防犯推進委員会連絡協議会）と連携し、御室小学校学区内の見守り活動を行っている。
- 毎週木曜日の下校時の見守り活動を行う「御室こども見守り隊」と、自転車による定期的な見回りを行う「御室青色自転車パトロール隊」の活動の2つを主な活動としている。
- また、御室こども見守り隊の中には、毎日の登下校時に見守り活動を行う人もいる。

基本情報

開始の経緯	平成25年ごろに結成。学校、地域のおやじの会、自治連合会による「声かけ隊」を前身とし、高齢化の進展に伴う活動の衰退を契機に右京区自主防犯ボランティア団体の傘下として「御室こども見守り隊」の活動を開始。
取組内容	登下校時の見守り活動、自転車による見回り、通学路の危険箇所に関する小学校への情報提供
活動者数と主な経歴	民生委員、PTA、防犯推進委員、元会社員、大学生など71名
活動学校	京都市立御室小学校
行政からの支援	装備品購入に対する補助 ※備品購入には自主防犯ボランティアによる補助も活用

活動の内容

- 学区内の3箇所登下校の見守り活動を実施している。また、毎週木曜日の下校時間帯には、特に危険な8箇所を対象に加え、各所2～3名のボランティアが見守りをしている。
- 見守り活動中に通学路上の危険箇所を見つけた場合には、小学校に情報を提供し、対応してもらっている。
- 見守り隊参加者のうち、3割以上が75歳以上である一方、2名の学生ボランティアが所属していることが特徴である。
- 平成30年6月からは、見守り隊に加え、下校時間帯に自転車で通学路を見回る「御室青色自転車パトロール隊」を発足し、定期的なパトロールを実施している。これは、先駆的な取組として全国ネットのテレビ番組等で紹介された。
- 以前は学区内に痴漢が多数発生していたが、近年は減少傾向にある。また、令和2年度の学区内における不審者は0人と見守り隊の成果が表れている。

活動の工夫

- ◎ **見守り隊・隊員の認知度向上により地域への定着を図る**
 - 見守り活動を地域に根付かせるためには、活動そのものはもちろんのこと、見守り隊員の人となりを知らってもらうことが重要である。
 - 御室小学校では、PTA広報誌に顔写真付きの活動紹介を掲載し、保護者への周知を図っている。
 - 学生の隊員が活動を開始した当初は、通学路に見慣れない若者がいることを訝しげに思う保護者も少なくなかったが、人となりを理解してもらうにつれ、徐々に地域に受け入れられていき、今では地域に欠かせない人物の一人となった。
- ◎ **無理なく活動できることが継続性に繋がる**
 - 負担軽減のため、日々の参集は行わず、隊員は自宅から持ち場に直接出向く。また、活動が難しいときには遠慮なく欠席してよく、隊員同士で補いあっている。
 - 個々人が「子供たちのために」と気負いすぎず、「子供たちの笑顔が見たい」「健康維持のため」等、自分なりの活動意義を持つことが大切である。

充実した活動には学校との繋がりが不可欠

御室こども見守り隊のみなさん

御室こども見守り隊には、2名の学生ボランティアがいます。学生からの申し入れを受け、学校がすぐに見守り隊へと話をつないだことで参加が実現しました。学生が参加するというのは前例のないことだったと思いますが、御室小学校は柔軟に対応してくれてありがたかったです。



写真左から：見守り隊リーダー 山本哲さん、齋藤光さん（大学院生）、矢野希さん（大学生）、見守り隊創設者 吉田勝也さん

見守り隊の活動を充実させるためには学校との繋がりが欠かせません。見守り隊の主な活動は登下校時の見守りですが、通学路の危険箇所に気が付いた場合には、都度学校に伝えるようにしています。学校はいつも迅速に対応してくれていて、既にいくつかの箇所が改善されています。自分たちの気付きが通学路に反映されると嬉しいですし、活動のモチベーションアップにも繋がります。

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士の 連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

石川県金沢市

「“子供の視点”を重視する、夕日寺スクールサポート隊の見守り活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
中核市	450,542人	468.79km ²	961人/km ²	54校

※令和3年3月1日現在



活動の概要

- ・ 夕日寺小学校では、地域住民や保護者によって構成される「夕日寺スクールサポート隊」が、子供と一緒に通学路の点検を行い、危険箇所のピックアップや「地域安全マップ」の作成を行っている。
- ・ 活動は、防犯委員会、警察、近隣の大学生、町会・自治会、保護者会、社会福祉協議会など、地域の諸団体と人員の面でも資金の面でも連携して進められている。
- ・ 他の地域学校協働活動と担い手が重複していることによって、サポート隊の参画者にも広がりがみられており、相乗効果を生んでいる。

基本情報

開始の経緯	2005年に保護者会と老人会のメンバー130名で「夕日寺スクールサポート隊」を立ち上げ。サポート隊が主体となって、各種活動を学校側に持ち掛けている。
取組内容	毎年、サポート隊員が実際に校下の危険箇所を見て回る点検、子供たちと一緒に危険箇所を実際に見て回る点検の実施、地域安全マップの更新
活動者数と主な経歴	地域住民、保護者等：98名（令和2年度） ※各町会が重要な活動単位になっている
活動学校	金沢市立夕日寺小学校

活動の内容

- ・ 年に2回、警察から講師を呼び、講習会を行う。また、集団下校を行い、サポート隊が子供と一緒に通学路の安全点検を行っている。集団下校では、1～6年生の全児童が、サポーターと一緒に町別に歩いて、危険箇所のチェックを行い、子供たちの危険予測能力の向上を図るとともに、「地域安全マップ」を作成更新し学区内の全戸（1,600戸）に配布している。
- ・ 見守り活動だけではなく、道路の整備について県の土木事務所にかけ合うなど、幅広い視点での安全確保に取り組んでいる。
- ・ 「タイムリーに動く」ということを意識しており、コロナ禍の学校消毒、熊警戒・強風雪下校などの学校支援体制を作っています。常に活動内容等について、広報配布や隊員内で話し合いを行っている。会合は、通常は夕日寺小学校内のミーティングルーム（地域の人も使用できる場所）で行っている。
- ・ 防犯委員会、警察、近隣の大学生、町会・自治会、保護者会、社会福祉協議会等と連携している。資金面でも、町会連合会、育友会、社会福祉協議会等から支援金ももらっており、夕日寺スクールサポート隊が身に着ける装備品の費用などをまかなっている。

活動の工夫

◎ 「子供の視点」での危険箇所のチェック

- ・ 子供と一緒に安全点検を行うことで、大人だけでは気が付きにくい、子供目線での危険箇所の発見につながる。また、横に広がって歩いてしまうなど、子供ならではの行動も観察できるため、注意喚起につながっている。
- ・ 子供とのコミュニケーションが取れるため、挨拶しやすい関係性を築くことができている。

◎ 他の地域学校協働活動との連携で、活動者の広がりが生まれる

- ・ サポート隊において中心的な役割を果たしている植田氏は、夕日寺小学校の学校運営協議会委員でもあり、サポート隊の活動のほかにも、様々な学校支援活動（地域学校協働活動）に関わっている。
- ・ 土曜授業や地域活動で築いた人脈をきっかけに、近隣の大学生がサポート隊の活動に参加してくれるようになるなど、活動者に広がりが生まれている。

子供との交流が、大きなやりがい

夕日寺スクールサポート隊 植田卓志さん

自分の孫が、自由研究で地域の歴史について調べていたことをきっかけに、夕日寺地域に関心を持つようになり、地域の人と関わりを深めました。また、スクールサポート隊の活動にも参画するようになりました。

活動が続いていると、小さかった1年生の子が6年生になり、その成長を見守ることに喜びを感じます。また、普段から子供が挨拶してくれますし、卒業した高校生や大学生が声をかけてくれることもあるのですよ。そのようなつながりができることが、一つのやりがいになっています。

活動をする中での課題は、やはり担い手の高齢化と不足です。継続性の面で、息の長い活動にしなければなりませんから、できるだけ制約はゆるやかに、無理のない範囲で協力してもらうことを心がけています。また、交通事故や火災災害事例があり、見守り隊員の安全面も、重要な検討事項になっています。



SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

鳥取県湯梨浜町

「コミュニティ・スクールを活用し、活動が活性化したオレンジベスト隊」

行政区分	人口	面積	人口密度	町立小学校数
町	16,740人	77.9km ²	215人/km ²	3校

※令和3年1月1日現在



活動の概要

- 湯梨浜町立東郷小学校校区で活動する「オレンジベスト隊」は、現在70名が活動している。校区内29の集落すべてにおいて、1名以上の隊員が定点見守り、付き添い登校、下校時の見守りなどの活動を実施している。
- 当初は地域の老人クラブを中心に活動していたが、高齢化が進み一時は活動の衰退がみられた。しかしながら、コミュニティスクールとの連携により活動が活性化された。
- 活動のコンセプトは「そろいそろい、無理をせず、楽しみながら、持続可能な活動をする」こと。 ※そろいそろい：「のんびり」、「ゆっくり」などの意味を持つ方言

基本情報

取組開始の経緯	平成17年東郷小学校開校と同時にオレンジベスト隊を結成 平成30年からコミュニティスクールの一環としての活動を開始
取組内容	登校時の付き添い、交差点等での定点見守りなど
活動者数と 主な経歴	令和2年度：70名 ※平成30年度：44名 地域住民、保護者 なお、隊に登録していなくとも活動に参加される方が多数
活動学校	町立東郷小学校校区内
行政からの支援	活動時のオレンジベスト ※登校旗についてはPTAが準備



活動の内容

- 活動のコンセプトは「そろいそろい（のんびり、ゆっくり）、無理をせず、楽しみながら、持続可能な活動をする」こと。
- 主な活動は、登校時の児童付き添い、登下校時の交差点等での定点見守り、スクールバス停留所までの引率等である。
- 児童とともに、幼稚園児も一緒に付き添い登校を実施することもある。
- ただし、活動内容に取り決めはなく、活動者1人1人が危険箇所を考えるとともに、各々の居住地やライフスタイルを踏まえ、無理なく、負担なく、可能な範囲で活動している。
- 東郷小学校校区内29の集落に、1名以上の隊員が活動している。
- 平成30年、東郷小学校にコミュニティ・スクールが導入されたことを契機に、オレンジベスト隊の見直し及び強化を実施し、隊員数は毎年増加している。

活動の工夫

◎ コミュニティ・スクールの活用が、見守り活動者数の増加に繋がる

- 活動当初は老人クラブを中心に活動していたが、活動者数は減少していた。
- コミュニティ・スクールの一環として活動を開始したことにより、高齢者だけでなく、保護者など、若い世代も一緒に活動することとなり、隊員数が増加した。
- オレンジベスト隊により、児童から保護者世代、高齢者世代まで、幅広い住民の繋がりが生まれたことで、地域コミュニティの活性化にも繋がっている。

◎ 活動者のフォローにより、持続可能な活動を実現する

- 無理なく、負担なく活動してもらうことを意識しているが、責任感の強い隊員も多く、身体の不調等により活動辞退の申出も少なくない。
- こうした場合、調子のよいときだけオレンジベストを着用し、家の前に座って児童を見守っているだけでもありがたいこと等、活動者に「それだけでもよいのか」と思っていたくことも、地域の見守りの目を維持する上では重要である。

活動が長続きする要因は「自分のため」に活動しているから

オレンジベスト隊 隊長 中前雄一郎さん

見守り活動の目的は人それぞれです。それよりも、活動が「楽しいか」、「無理をしていないか」ということを重視すべきで、それらが持続可能な活動に繋がると思っています。また、隊員が楽しそうに活動していると、地域住民が「自分もやりたい」と手を挙げてくださるようにもなり、隊の活性化にも繋がっています。

オレンジベスト隊 隊員 山田政則さん

活動を始めてから規則正しい生活になりました。活動を続けているのも、健康維持のためです。活動はよい運動になりますし、子供たちから元気を分けてもらえるので、心身ともに大変健康です。ちなみに、活動時の子供たちとの挨拶は楽しいですが、恥ずかしがり屋の子供もいるので、挨拶への返事を求めないことがポイントだと思います。



左から：中前雄一郎さん、山田政則さん

4. 見守り活動等に対する、行政等からの支援に関する取組事例

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

熊本県

「皆で支え合う、県下の見守り活動 PTA教育振興財団の共済金による支援」

行政区分	人口	面積	人口密度	県内小学校数
県	1,733,350人	7,409.46km ²	233.9人/km ²	340校

※平成27年国勢調査を基礎とした令和3年2月1日現在の推計人口



活動の概要

- 平成17年から実施していた「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を取りやめることを受けて、同様の取組を続けたいとの目的から、熊本県独自の取組を開始。
- 一般財団法人熊本県PTA教育振興財団（以降PTA財団）が主体となり、県内の希望する全小学校に、見守り活動の財源として1校あたり最大3万円を支給している。
- 各小学校区では、小学校から依頼を受けた地域学校安全指導員が、登下校等の見守り活動を行っている。

基本情報

開始の経緯	平成17年度から開始した「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の取組を引き継ぐ形で、熊本県独自の取組を開始
取組内容	「地域学校安全指導員」が見守り活動を行い、巡回結果（危険の有無等）を事業完了報告書として報告
活動者数と主な経歴	地域学校安全指導員は、各学校が警察官OB、教職員OBや地域に精通している者等の中から適任と思われる人に依頼を行っており、属性は様々（正確な人数も不明）。
活動学校	322校（うち熊本市82校）
提供する支援	PTA財団から見守り活動の財源として1校あたり最大3万円を支給

活動の内容

- PTA財団が主体となり、県内小学校（2020年度は322校）に、見守り活動の財源として1校あたり最大3万円を支給。
- 財源は、PTA財団の共済掛金。PTA財団は、もともと学校教育やPTA活動中の事故等に対する共済給付金の支給を主として立ち上がったが、現在は「教育の振興」という大きな理念のもとに、子ども見守り活動や学校へのAEDの設置などにも取り組んでいる。
- 各校3万円の支給金は、基本的に物品購入ではなく地域学校安全指導員の見守り活動の実施に係る経費補助に使用する。見守り活動は、1回につき1,000円、年間30日を目安とする。（1人で30回、3人で10回ずつなど、形式は問わない。）
- 活動を希望する学校は、事業計画を作成して県教育庁県立学校教育局学校安全・安心推進課（熊本市は市教育委員会健康教育課）に提出し、適正と認められる場合は同課が承認通知を行う。事業期間終了時には、事業完了報告書を提出する。（指導員名、巡回日、気づき等を記録する簡易なもの）

活動の工夫

◎ 見守り活動へ経費補助することで、協力依頼しやすい活動に

- 見守り活動を行う際には、1回あたり1,000円の経費補助を行う。大きな金額ではないが、少しでも活動費を支給することで、完全ボランティアとするよりも依頼がしやすく、気持ちよく活動してもらえるようになっている。
- 活動中にケガを負うリスクもゼロではないので、そのようなリスクを負って活動してくれることへの手当という意味合いもある。

◎ 目的の共有や意識啓発が活動展開のカギ

- 安全指導員の育成のためには、「負担感」「やらされ感」を軽減し、見守り活動の必要性を感じて参画してもらうことが重要である。そのため、活動者と「子供の安全確保や教育の振興」というビジョンを共有することに重点を置いている。
- 1校あたり最大3万円の事業費を、見守り活動の実施に係る活動費として使用し、物品購入での使用を推奨していないのも、そのためである。

より広い範囲での、意識の浸透を目指したい

一般財団法人熊本県PTA教育振興財団 理事長

本事業では、目的や理念の共有を非常に大事にしています。普段活動する安全指導員の皆さんだけではなく、そのほかの保護者や地域住民も、皆子供の安全確保の役割を担っています。今後は、より広い範囲での、意識の浸透を目指したいと考えています。



写真右から：PTA財団理事長、常務理事

一般財団法人熊本県PTA教育振興財団 常務理事

県下の小学校区での見守り活動は、地域特性に応じて様々な形で行われています。本事業は、そのような各地域での活動の姿をそのまま認め、そこに資金的な援助を行うことで、少しでも活動しやすくなることを期待しています。

大きな金額でなくとも、活動費を支給することで、ある程度の意識向上にもつながっているように感じています。

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

新潟県胎内市

「地域一体となり、子供の見守り組織を支える活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
市	28,431人	264.9km ²	107人/km ²	5校

※令和3年2月28日現在



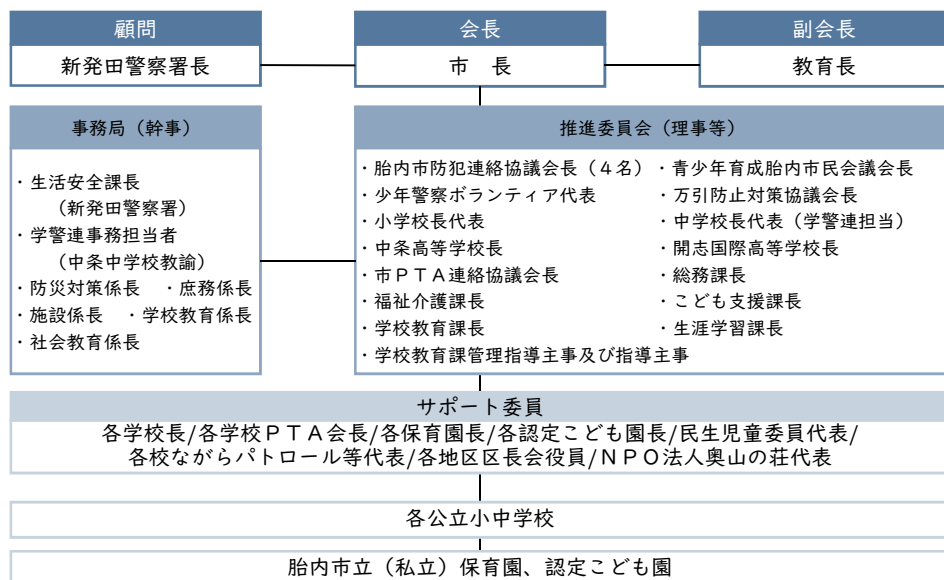
活動の概要

- 胎内市では、市内すべての小学校のそれぞれにおいて、防犯ボランティア組織が結成、登下校時の見守り活動等を実施している。
- 平成18年2月、防犯ボランティア組織の定着及び持続可能な活動の実現に向けて、様々な機関が連携し、地域一体となって支える「胎内市子どもを見守りタイ」を組織した。
- 「胎内市子どもを見守りタイ」では、年1回の総会を開催し、情報共有や功労者表彰、事例発表会、講習会等を開催している。

基本情報

開始の経緯	平成17年1月：市立(旧中条町立)本条小学校にて「児童を守るながらパトロール」が設立 平成17年12月：市内全小学校にて防犯ボランティア組織が設立 平成18年2月：「胎内市子どもを見守りタイ」が設立
取組内容	胎内市子どもを見守りタイ：総会の開催 各防犯ボランティア組織：登下校時の見守り活動等
活動者数と 主な経歴	胎内市子どもを見守りタイ会員数：78名 各小学校パトロール隊の構成員数：191名 パトロール隊の構成員は地域住民、保護者など様々
活動学校	市内全小学校(5校)

▶胎内市子ども見守りタイ組織図



活動内容

■胎内市子どもを見守りタイ

- 顧問に新発田警察署長、会長に胎内市長、副会長に教育長とし、小・中学校、高校、防犯協会、NPO、自治会等、市内の様々な団体が加盟している。
- 年1回の総会を開催し、各防犯ボランティア組織の情報共有、功労者表彰、事例発表会、講習会を開催している。

■市立中条小学校「つばさっ子すこやかパトロール」

- 登下校時の定点見守り、付き添い下校などを実施している。
- 活動内容に決まりはなく、各活動者ができることを考え、実施している。
- 活動にあたっては、学校より帽子、腕章、ジャンパー、名札が装備品として支給されている。装備品の色は、緑色の蛍光色に統一し、見守り活動中であることが一目でわかるように工夫している。



子供たちからの「ありがとう」がモチベーションアップになる

中条小学校「つばさっ子すこやかパトロール」 中原昭夫さん

子供たちから「ありがとうございます」と言われたり、頼りにされていると感じるとやる気が出ます。中条小学校では定期的にボランティアへの感謝の会を実施しており、私も呼んでもらっています。子供たちが製作したポケットティッシュ入れを貰ったときは、非常に嬉しかったです。活動が大変だと思ったことはありませんが、モチベーションアップには繋がっています。



～プロフィール～

- 定年退職後、愛孫の小学校入学を機に自主的に通学路の見守り活動を開始。
- その後学校から声がかかり、つばさっ子すこやかパトロールに登録。

5. 多様な活動者による安全・安心の創出に関する取組事例

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

宮城県白石市

「中学生を中心とした、安全・安心なまちづくりへの活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立中学校数
市	32,999人	286.5km ²	115人/km ²	4校

※令和3年2月末日現在



活動の概要

- 平成18年、市内3つの中学校が結団し、中学生を中心としたボランティア組織「PSCパトロール」が発足した。現在は、市内すべての中学校（4校）体制で活動している。
- PSCは、「Police（警察）」、「Student（生徒）」、「Cooperation（協力）」の頭文字であり、警察等と連携し、犯罪防止キャンペーン、交通安全運動を実施している。
- PSCパトロールを支える「PSCパトロールサポート協議会」が設置され、市・警察・学校・企業が加入している。また、様々な団体・個人から協賛金を集め、活動資金としている。

基本情報

開始の経緯	平成18年7月に市内3つの中学校が結団
取組内容	交通安全運動、犯罪被害防止（特殊詐欺含む）キャンペーン、痴漢防止キャンペーン
活動者数	各校の中学生 約100名
活動学校	市内全中学校（4校）
装備品等の支援	PSCパトロールサポート協議会から、ベスト、ジャンパー、のぼり旗を支給



活動の内容

- PSCパトロールの活動趣旨は次の3点である。
 - ✓ 市民としての自覚を持ち、安全・安心をモットーに活動することを通して地域の住みよい環境の維持に貢献するたくましい人になる
 - ✓ 交通事故の悲惨さを考え、日ごろから交通安全のために活動している人たちのありがたさを実感し、交通事故防止を呼びかける
 - ✓ 青少年の健全な育成を目指し、目先の楽しみだけを追うことのない、常識と非常識をしっかりと判断できる人になる
- PSCパトロールの活動は、各校が協働する活動と、各校がそれぞれ実施する活動に分かれる。
- 各校が協働する活動は、路上でポケットティッシュを配布しながら犯罪防止を呼びかける「犯罪防止キャンペーン」や、交通安全を呼びかける「交通安全運動」、2月14日バレンタインデーに合わせてチョコレートを配りながら痴漢防止を呼びかける「チョコっボランティア」などがあり、いずれも警察官が帯同している。
- PSCパトロールの活動資金は、協賛金で成立しており、地域防犯協会連合会、市内一般企業等の団体のほか、ロータリークラブ（社会奉仕連合団体）、市民、市職員、教職員、警察官等の個人からも協力を得ている。

活動の工夫

- ◎ **中学生からのメッセージを届けることで、一層の防犯意識向上に繋がる**
 - 中学生が自ら街頭で活動することにより、地域住民の関心や意識は高まる。
 - さらに意識を高めるため、犯罪防止キャンペーンで配布するポケットティッシュには、生徒からのメッセージを封入することとし、より「見て」「意識して」もらうよう心掛けている。
- ◎ **防犯活動を通じて子供たちの安全・安心に対する意識、考える力が醸成されるとともに、地域の未来を背負う人材の育成にも寄与する**
 - PSCパトロールは、中学生が地域の安全・安心を考え、主体的に活動すること自体にも大きな意義がある。
 - 活動を通じて、通学路をはじめ危険箇所に対する気づきはもちろん、日常生活においても「自ら考える」力が醸成されている。

自ら考え、行動することの楽しさを教えてくれました

白石中学校PSCパトロール副隊長 中学3年 岩淵仁琴さん

PSCパトロールへ参加したのは2年生のときです。元々は学校の生活委員として参画しました。活動を通して、地域の方々とコミュニケーションを取ることが楽しく、また、地域の方から「ありがとう」と言っていただけのがとても嬉しく、生活委員の任期が終了してからも、活動を継続しています。

今では、白石中学校PSCパトロールの副隊長として、効果的な活動を行うには何をすべきか、どのように行動すべきか、常に考えるようになりました。「中学生だからこそ」という気付きもあります。活動を通じて、課題を発見し、解決方法を考える力が高まったと感じ、日常生活や普段の勉強にも生かされています。PSCパトロールの活動は、自ら考え、行動に移すことがとても楽しいことだと教えてくれました。



～プロフィール～

- 白石中学校生徒会副会長。年間を通じて実施されるPSCパトロールのすべての活動に参加。
- 卒業後も、地域のために何か活動できないか模索中。色んな活動をしたいと考えているようになったのは、先生や警察官、地域の大人の皆さんがとても協力的だからとのこと。

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

宮城県塩竈市

「塩竈市内11の郵便局員による、“ながら見守り”の活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
市	53,444人	17.4km ²	3,071人/km ²	7校

※令和3年2月末日現在



活動の概要

- 平成30年11月より、塩竈市教育委員会と塩竈市内11の郵便局にて見守り活動の協定を締結し、ながら見守り活動を開始した。
- 日常業務、配達業務、通勤・退勤時間帯に、ながら見守り活動を実施している。また、集配業務時には、バイクや自動車に見守り中であることを示すステッカーを貼り付けて活動している。
- また、見守りだけでなく、不審者や不審車両の情報収集や、道路の損傷等の通学路の安全状況の確認・報告の実施、窓口における児童生徒の保護・通報を実施している。

基本情報

開始の経緯	平成30年11月 市教育委員会と塩竈市内11の郵便局（代表：塩釜郵便局）にて協定を締結
取組内容	ながら見守り活動、不審者・不審者情報の収集、通学路の安全状況の確認、またこれらについて市教育委員会への報告、窓口での児童生徒の保護・通報
活動者数	塩竈市内11の郵便局員約200名 うち、120～130名が交代で配達業務に従事
活動学校	市内全域
行政からの支援	「こども見守り中」ステッカーの提供



活動の内容

- 日常業務、集配業務また通勤・退勤時間帯において、ながら見守り活動を実施している。
- 登校時間帯は配達時間前のため、社員に対し、出勤時にながら見守りを意識するよう指導している。
- 下校時間帯は配達時間と重なり、配達員は反射材付きのタスキを身に付け、バイクや車に「こども見守り中」のステッカーを貼り付けて、集配しながらの見守り活動を実施している。
- 活動中に発見した不審者や不審車両については、明らかに通報すべきものを除き、不要なトラブルを避けるためにも局内に一報し、指示を仰ぐこととしている。また、通学路上の不審者情報等は局内に設置した窓口から教育委員会へ都度連絡することとしている。
- 通学路上の危険箇所（道路損傷、マンホールが外れている、側溝蓋がずれている等）は、局内で集約し、市へ報告している。
- 窓口においても児童生徒の保護・通報を行っている。

活動の工夫

◎ 常に地域を巡回する配達員を活用することで、見守りの目が増加する

- 郵便局員は常に地域を巡回していることから、ながら見守りの意識付けをするだけで、地域の見守りの目が増加している。
- また、特定の職員が、特定の地域を巡回することから、不審者や危険箇所に対する気づきも多くなり、安全な通学路の確保が実現している。

◎ 不審者情報や通学路の危険箇所等の情報は、局内で集約して市へ報告することで、抜け漏れない情報共有が実現する

- 普段見かけない人や車両等に対する気づきは高くなる一方で、不審者、不審車両との線引きが難しい。
- また、危険箇所についても、配達員が都度通報しては、報告が重複する可能性もある。
- そこで、明らかに緊急性の高い情報を除き、各種情報は局内集約し、市教育委員会へ報告することとしている。

地域密着型サービスを提供する郵便局に、安全安心も任せて欲しい

塩釜郵便局 総務部 部長 上田敬史さん

郵便局の強みは、日常的に地域を巡回し、地域をよく知っていることにあります。また、配達業務、窓口業務を通じて、地域の方々と積極的なコミュニケーションを取っていることから、地域住民と顔見知りとなる郵便局員も少なくありません。特に、市内在住の局員が多いことも、塩釜郵便局の強みです。

地域密着型サービスの提供を目指し、日々の業務が見守り活動上の強みとなる郵便局が、安全・安心な通学路の実現に寄与したい、そういう思いで日々活動しています。

